



平成 26 年 7 月 12 日

国際生物学オリンピック参加生徒の成績について

文部科学省では、(独) 科学技術振興機構を通じて、国際的な科学技術コンテストに参加する若者を支援する事業を実施しておりますが、このたび、インドネシア(バリ)で開催された「第 25 回国際生物学オリンピック」に参加した生徒が、金メダル等を獲得したとの連絡を受けましたので、報告いたします。

(共同発表：国際生物学オリンピック日本委員会)

1. 受賞状況 : 金メダル 1 名、銀メダル 3 名

2. 参加者 : 4 名の高校生

3. 受賞者詳細 :

石田 秀さん 筑波大学附属駒場高等学校 (東京都) 3 年 (17 歳) 銀メダル

蔵田 展洋さん 広島学院高等学校 (広島県) 3 年 (18 歳) 銀メダル

今野 直輝さん 筑波大学附属駒場高等学校 (東京都) 2 年 (16 歳) 銀メダル

那須田 桂さん 静岡県立浜松北高等学校 (静岡県) 3 年 (17 歳) 金メダル

(氏名の 50 音順にて掲載)

(年齢は本大会終了時点のもの)

4. 参加国数/人数 : 61 か国・地域 / 239 名

5. 場所 / 期間 : インドネシア(バリ) / 平成 26 年 7 月 6 日 (日) ~13 日 (日)

6. 派遣機関 : 国際生物学オリンピック日本委員会

(お問い合わせ)

文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課 : 助川、三瓶、小野

電話 : 03-6734-4191 (直通)

国際生物学オリンピック日本委員会 : 石和、鳩貝

電話 : 080-3151-7822

◆大会概要

- 国際生物学オリンピックは、1990年に現在のチェコ共和国にて第1回大会が開催された。
- 2014年のインドネシア大会は、第25回目。
- 日本は、2005年から参加を開始し、毎年4名の選手を派遣。本年は10回目の参加。
- 昨年（2013年）のスイス大会は、62か国・地域から240名の選手が参加し、日本の成績は金メダル1名、銀メダル3名であった。
- 本年（2014年）のインドネシア大会には、61か国・地域から239名の生徒が参加し、日本は金メダル1名、銀メダル3名という成績を収めた。

◆日本代表団の日程

- 7月5日（土）羽田発、バリ着
- 6日（日）大会登録、開会式
- 7日（月）実験試験会場視察
- 8日（火）実験試験
- 9日（水）エクスカージョン
- 10日（木）理論試験
- 11日（金）エクスカージョン
- 12日（土）エクスカージョン、表彰式、閉会式
- 13日（日）エクスカージョン
- 14日（月）バリ発、羽田着

◆参加生徒

いしだ しゅう 石田 秀さん	筑波大学附属駒場高等学校（東京都）	3年（17歳）	銀メダル
くらた のぶひろ 藏田 展洋さん	広島学院高等学校（広島県）	3年（18歳）	銀メダル
こんの なおき 今野 直輝さん	筑波大学附属駒場高等学校（東京都）	2年（16歳）	銀メダル
なすだ けい 那須田 桂さん	静岡県立浜松北高等学校（静岡県）	3年（17歳）	金メダル

◆過去の国際生物学オリンピックにおける日本代表の成績

- 2011年（第22回 台湾・台北大会）
金メダル3名、銀メダル1名（参加規模：58か国・地域、229名）
- 2012年（第23回シンガポール大会）
銀メダル4名（参加規模：59か国・地域、236名）
- 2013年（第24回 スイス・ベルン大会）
金メダル1名、銀メダル3名（参加規模：62か国・地域、240名）

◆国際生物学オリンピック (International Biology Olympiad)

国際生物学オリンピック (IBO) は、1990 年に現在のチェコ共和国のオロモウツで第 1 回大会が開催された、生物学に関心を持つ高校生等を対象としたコンテストであり、以下を目的としている。

- a) すぐれた生徒を一堂に会わせて、刺激をあたえ挑戦させることにより、その能力をのばし、科学者にそだてる。生物学の美しさと様々な意義を明らかにして、とりわけ自然や環境の保護をはかり、社会における生物学の重要性を訴える。
- b) 生物学教育に関するアイデアと教材の交換や比較をおこなうことにより、各国の生物教育を向上させる。
- c) 国際生物学オリンピックにかかわるさまざまな組織の交流をはかることにより、生物学分野での活動の相互理解をはかる。

国際大会は、毎年 7 月に開催され、実験問題と理論問題が課される。個人戦であり、成績優秀者には金メダル (参加者のおよそ 1 割)、銀メダル (同 2 割)、銅メダル (同 3 割) がそれぞれ贈られる。

2013 年のスイス大会では日本の提案で初めて参加教員向けに「教育セッション」が開催され、加盟各国の高校生物教育についての情報交換が行われた。この企画は各国参加者からその意義を高く評価され、今回インドネシア大会でも継続して開催された。過去の生物学オリンピック参加生徒を対象とした国際的調査の結果などをもとに、活発な討論がかわされた。

◆国際生物学オリンピック日本委員会 (Japan Biology Olympiad Committee)

国際生物学オリンピック日本委員会 (JBO) は、国際大会に派遣する日本代表選考を兼ねた日本生物学オリンピックを開催している。日本生物学オリンピックは単に代表選考のためだけではなく、生物学の持つ面白さ楽しさを体験してもらうことを目的とする全国規模のコンテストであり、20 歳未満で大学に入学する前の青少年であれば誰でも参加可能である。生徒らが積極的にチャレンジできるように試験会場を各都道府県に設置している。

この活動を通じて我が国の生徒に対し、生物学への興味の喚起と知識の普及を図りつつ、広く科学技術一般への関心の向上と理解の増進を推し進めるとともに、国際大会への参加体験が、将来の科学技術を支える人材の育成にも役立つことを期待している。さらに国際的な研究者・教育関係者の交流により、我が国の生物教育の充実・発展に寄与することを目指している。

◆本参考資料に関するお問い合わせ先

国際生物学オリンピック日本委員会：石和、鳩貝

電話：080-3151-7822